

広告特集

企画制作 朝日新聞社メディアビジネス局

発池模様の襦子(部分)江戸時代 女子美術大学美術館 所蔵
茶室染と呼ばれる染めによる武家女性の着物。梅の小花や雲がたなびく浴衣外図を思わせる風景模様が描かれる。



女子美術大学 特任助教
大崎 綾子氏

女子美術大学では、明治33年の私立女子美術学校としての創立時から刺繍科が設けられ、以来、美術としての刺繍教育を受け継いでいます。今回、「宮」という織物の地で、本学の卒業生である画家・三岸節子を顕彰する美術館で、開館20周年の特別展として刺繍美術を紹介できることに深い感概を覚えます。本展は、あまり知られていない日本刺繍の変遷を体感できる機会。貴重な作品も多く、特に江戸時代の着物は劣化しやすいため公開できる回数や期間が限られる、著名なものがこれだけ並ぶのは稀なこと。着物好きな方にも楽しんでいただけるのでは。

刺繍の特徴は凹凸のある質感。つるりと光沢のある絹、さらりとした麻など、選ぶ糸、その燃り方、刺す向きなどで表情が変わります。表現の色々な工夫が行われています。意外な世界が広がります。光の加減や角度でも変わる表情、その細かさ、大胆さを味わってみてください。

織細に、色彩豊かに、糸によつて描かれる刺繍という芸術。日本におけるその歩みを、絵画との関係性も含めてたどる展覧会が「宮市三岸節子記念美術館」で開催されています。明治時代から刺繍教育に取り組み続け、所蔵作品を多数紹介している女子美術大学から、大崎綾子特任助教に同展と刺繍の魅力について語っていただきました。

光でも変わる表情 ひと針ひと針に宿る精神性



後ろに見える作品は、本画のゆらぎなどが表現されている。青と緑の刺繍 青谷節子 平成29(2017)年 個人蔵



刺繍訪問着 藍光(部分) 大崎綾子
平成28(2016)年 個人蔵
大崎綾子氏の作品も紹介。温かい春の光を浴びて、つぼみを影らせて咲き、若葉を茂らせていく桜の木の様子を、絹糸のステッチによる柔らかな模様で表現している。

絵を描く糸 刺繍美術展

江戸時代の着物から現代染織まで

開館20周年記念特別展



今尾景年(1875-1933)の「天寿園」の刺繍。今尾景年が刺繍を施した夏装、刺繍と金糸もふんだんに用いた全通刺繍は圧倒的な迫力。刺繍の凹凸した様子などが立体感に表現されている。



江戸時代の着物から現代アートまで約90点を並べ、日本刺繍の流れをたどる旅へ誘う。写真ではわかりにくい細やかな表情を、至近距離でじっくり見てみたい。(写真は前期展示作品)

スペシャルギャラリートーク

日時/11月18日(日) 14:00~
講師/大崎綾子氏(女子美術大学 特任助教)
参加費/無料(要観覧券)
申込み/不要(当日直接会場)



御殿文様打掛 大正2(1913)年 株式会社千歳 所蔵
高島屋田代家から京都の友禅染の老舗、千歳に嫁いだ13代西村健左衛門夫人のために作られた婚礼衣装。江戸時代から発展してきた友禅染技術の集大成となった作品と言われ、松の模様などに重ねられた刺繍が一層の華やかさを醸し出している。

11月25日(日)まで好評開催中

開館時間 9時~17時(入場は16時30分まで)
休館日 毎週月曜日
観覧料 一般800円 高校・大学生400円 小・中学生200円
※コレクション展(常設展)観覧料を含む
※20名以上の団体は2割引
※一宮市内の小・中学生、および満65歳以上で住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書等を提示された方、身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(付添人1人を含む)は無料

主催 一宮市三岸節子記念美術館、朝日新聞社

一宮市三岸節子記念美術館

〒494-0007 愛知県一宮市小宮中島字南3147-1 TEL 0586-63-2892 http://s-migishi.com



●アクセス/JR東海道本線にて「尾張一宮駅」下車。または名鉄名古屋本線にて「名鉄一宮駅」下車(JR新快速・名鉄特急で名古屋駅より10~15分)。一宮駅西口の名鉄バスターミナルの番のりばから「館(おこし)」行きで約15分。「尾張一宮」三岸節子記念美術館前バス停下車、徒歩1分。[バスは約15分間隔で運行]

江戸 友禅染に刺繍が融合 粋な着物の世界

絵を描くように染められる友禅染が完成し、町人女性の間で大流行した江戸時代。庶民のものだった染めを位の高い武家女性も着たい、でもそのままでは抵抗があるということで友禅染と刺繍のコラボレーションが始まりました。模様の一部などに効果的に使われており、なかには教養を示す意味もあったという文字を刺したのも見られます。この頃、友禅染の技を生かして風景模様もよく描かれるようになり、そのなかでも珍しい吉原遊郭を描いた小袖も登場。そこにも刺繍がアクセントを添えています。



石屋藤文字模様の小袖(部分) 江戸時代 女子美術大学美術館 所蔵
身頃や袖に文字模様。藤原に忠実に刺すことで、藤の動きまでが表現されている。



刺繍頭 獅子図 寺島六之助刺繍 明治~大正時代 清水三年坂美術館 所蔵
ライオンのふさふさとした毛並みの質感までリアルに表現され、見る角度によって表情が変化するのも面白い。

好みを反映した花鳥や風景、動物など。画力と職人技の融合で、日本画の風情とはまた違う味わいが生み出されています。また、西洋のリトグラフなどを下絵にした犬やライオンの刺繍画もあり、それらは極めてリアル。写真のように縫い上げることで、技術力の高さもアピールしたといえます。

戦前 刺繍教育の中で育まれていった表現力

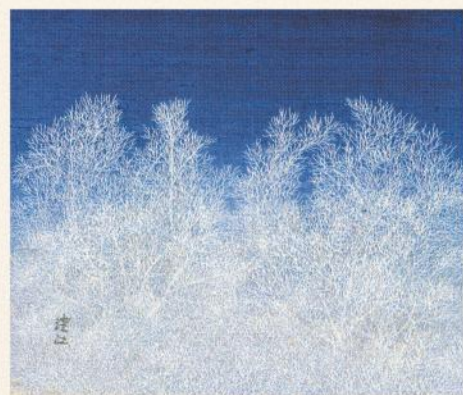
刺繍が産業としても重視されるようになると、求められたのが下絵から刺繍まで全工程を担える人材。女学校や専門学校で刺繍教育が始まります。その中で唯一、美術としての刺繍教育を推進した私立女子美術大学の学生の作品を展示。動物や風景などの写実的な表現、日本画や油彩画を元にした絵画的な表現と、パステルに富んだ作品からは女学生たちの熱意が伝わってきます。なお、東京は戦火や関

東大震災の被害にあいましたが、教員らの努力により作品が今に伝えられています。

刺繍画 風景(部分) 日南田百合 大正12(1923)年 女子美術大学 デザイン・工芸学科 工芸専攻 刺繍 所蔵 [11/13~11/25期間展示]
刺繍による署名がつけられており、卒業制作だったと考えられます。

現代 戦後の発展そして自由な染織アートへ

戦時中の停滞を経て、解放された刺繍美術。新時代の幕開けを象徴するのは、刺繍に油彩画や染色を併用する絵画的刺繍を確立した若尾清や、その元に弟子入りし、ハシラ式刺繍を女子美術学校の後進へ伝えた田沢澄江。そこに続くのは、様々な素材などとの組み合わせが試みられ、立体的なインスタレーションにまで至る染織アートの世界。自由に広がっていく刺繍の可能性を感じさせてくれます。



霧氷 田沢澄江 昭和47(1972)年 女子美術大学美術館 所蔵
刺繍の技法は現存する最古の刺繍である飛鳥時代「天寿園刺繍」に使われているまつり縫い。